



かけこう通信

令和7年度 第8号
令和7年12月16日
島根県立三刀屋高等学校
掛合分校発行(文責:小川)

【特集】謝謝！台湾！～2年生台湾研修旅行 引率記～

2年生「台湾研修旅行」、3泊4日の日程を無事終えることができました。本事業の実施にあたっては、雲南省役所の皆様、宇山営農組合、藤本米穀店ほか関係各機関・団体の皆様、地域の皆様、保護者の皆様に多大なご理解とご支援をいただきましたこと、まずもって御礼申し上げます。ありがとうございました。

掛高では、令和4年度から毎年2年生が取り組む地域をフィールドとした探究活動「うんなんのお米を応援するプロジェクト」との連携を期待し、昨年度に引き続き、今年度も台湾での雲南省産米の販売機会を得ることができました。

とりわけ雲南省役所、また雲南省PR大使も務めている林定三様（鼎三國際企業有限公司会長）、その関係の皆様から多大なご支援をいただきました。旅行期間を昨年度より一日増やして、雲南省が「文化交流・経済交流等における友好協力に関する

確認書」を結んでいる彰化県二林鎮を訪れ、現地の高校「國立二林高級工商職業學校」「彰化縣立二林高級中學」の二校と生徒同士の交流を深めました。また、見学した台北101タワーから程近いSOGO忠孝館でお米の販売実習を、大盛況のなか行うことができました。いずれも充実した研修内容を順調にこなすことができましたこと、改めて感謝申し上げます。

引率した私たちは、日本とは異なる食文化に直に触れたり、観光地九份では悪天候に見舞われたりして、生徒たちに異国の地でいかに体調管理させるか、その難しさを感じましたが、行く先々で台湾の皆さんからいたくエネルギッシュなおもてなしに、身振り手振りや翻訳アプリを駆使しながらなんとか意思を伝えようと奮闘する姿など、子どもたちが日に日に成長していく様子を目の当たりにすることができました。

生徒の皆さんには当初に掲げた目的「①国際理解を深める ②地域貢献の意欲を高める ③親睦を深め、公徳心を養い、自己を見つめなおす」のすべてを達成できたようですね。初めての飛行機・新幹線、初めての海外等、たくさんの“初めて”を経験した皆さんもいたのではないでしょうか。この一連の研修における様々な経験が、皆さん一人ひとりが持っている可能性を広げる契機となることを期待しています。（小川）

○11月16日（日）：旅立ちと台湾での温かい歓迎

朝7時30分、掛合町（気温4°C）から参加者全員で出発。高揚感を胸に広島空港へ向かい、初めての搭乗手続きも事前の説明のおかげでスムーズにクリアしました。3時間のフライトで台湾・台北に到着。蒸し暑い気候の中、バスで約3時間移動し、目的地二林へ。

現地では林会長が手がけるフードバンクの社員とそのご家族に温かく出迎えていただきました。一同でお寺や夜市を散策し、夕食を共にしながら台湾文化を体験。心尽くしのもてなしに、生徒・引率者一同心より感激しました。



○11月17日（月）：現地高校との交流と

憧れの九份散策

前日の雨の懸念とは裏腹に、6時30分起床時には青空が広がる好天となりました。生徒たちは2班に分かれ、「國立二林高級工商職業學校」と「彰化縣立二林高級中學」の2校を訪問。両校で校長先生をはじめ、先生方や生徒の皆様に温かく出迎えていただきました。お互いの学校紹介を行い、生徒たちは共通点に強い興味を示していました。その後、両校の象徴的な学習活動であるベルトの製作やボクシングを見学・体験した後昼食を共にしました。言葉の壁はあるものの、生徒たちが少しずつ打ち解けていく様子は大変喜ばしいものでした。



昼食後、新幹線とバスを乗り継ぎ、九份へ。移動中に天候が悪化し、九份ではかなりの雨風に見舞われましたが、生徒たちは雨具を着用し散策。ずぶ濡れになりながらも「千と千尋の神隠し」の世界を彷彿とさせる景色に魅了されました。夕食後、ホテルへ移動。希望者の一部は地元の夜市へ出かけ、台湾の夜を満喫しました。



○旅を通しての成長と感謝

生徒たちはこの数日間で、不安や葛藤を乗り越え、様々な挑戦を繰り返したことで一回り成長した姿で帰国しました。旅の途中想定外の出来事に遭遇しましたが、いつも周囲には友だちがいて、躊躇することなく友人に手を差し伸べている姿がありました。個性の強い2年生は、普段からぶつかることもありますが、友人に温かい思いを寄せる姿がとても印象に残りました。旅の間の出来事全てが、生徒たちにとってかけがえのない経験となりました。

最後に生徒たちの貴重な体験を多方面から支えてくださったJTB様、雲南省、宇山営農組合の方々、藤本米穀店様に心より感謝申しあげます。（角田）

○11月18日（火）：莊厳な儀式と実践的なビジネス体験

午前中は忠烈祠を訪れました。あいにくの雨天でしたが、衛兵交代式は本殿の軒下で厳粛に執り行われました。衛兵の行進は見られなかつたものの、静謐な雨音の中で行われた交代の儀式は、生徒たちに深い感動を与えました。続いて訪れた故宮博物院では、歴代皇帝が収集した至宝の数々を鑑賞しました。人気展示品である「翠玉白菜」は別館展示のため実物を見るすることはできませんでしたが、生徒たちはガイドの説明に熱心に耳を傾け、中国数千年の歴史と文化の重みに触れる貴重な学習時間となりました。



午後は台北の象徴である台北101へ。展望台から見渡す台北の街並みは圧巻で、雨模様の中でも街の活気と台湾の経済的なエネルギーを感じることができました。その後、そごう百貨店へと移動し、日本の「お米」の販売体験に挑戦しました。事前の販促物（米みくじなど）は税関の関係で断念せざるを得ませんでしたが、生徒たちは限られた状況の中、スマートフォンによる翻訳アプリを駆使しながら、お米の



美味しさと品質を懸命に伝えました。台湾の方々の日本の農産物への関心の高さと、具体的な質問の多さに触れ、海外販売の大きな可能性を実感。予期せぬ困難に対応する実践的なビジネス感覚を養う、非常に貴重な経験となりました。

○11月19日（水）：早朝の出発と感謝

台湾最終日は、午前4時20分ホテルロビー集合という超過酷なスケジュールとなりました。生徒たちは疲労を見せつつも定刻通りに出発し、桃園国際空港へ。フライトまでのわずかな時間を使って台湾最後の思い出としてお土産を購入するなど、最後まで滞在を楽しんでいました。

今回の研修旅行を無事に終えられたのは、現地ガイドの劉佩珊さんの献身的なサポートとプロフェッショナルな対応のおかげであり、心より感謝申し上げます。この過酷な最終日のスケジュールは、生徒たちにとって、貴重な経験をやり遂げた達成感と、台湾での素晴らしい思い出を強く焼き付ける締めくくりとなりました。（後藤）



「台湾日記」

○11月16日（日）

彰化県鹿港では、鹿港天后宮へと続く夜市を散策しました。道の両側には、台湾でしか味わえない飲食物のほか、ナツ、野菜、靴などの生活用品が並んでいました。



狭い道をバイクや車が走行するため、歩行には注意が必要でしたが夜市特有の様々なにおいと喧騒が入り混じる活気溢れる場所でした。

においや騒音に苦痛を感じる生徒もいました。

○11月17日（月）

二林の高校で交流活動後、台湾高速鉄道を利用して台北へ移動。赤い提灯が幻想的な九份を散策しました。九份は年間降雨が約8割とも言われている通り、風が強く冷たい雨降りでした。



冷たい雨に濡れて体調を崩さないためにも、散策にはシューズカバー、フード付き足首近くまでの長さの雨合羽、タオルといった雨対策が必要でした。

○11月18日（火）

路上は数えきれないバイクが、車と車の狭い間を縫うように、車のサイドミラーすれすれを巧みな技ですり抜けていきます。

日本では見ないこのようなアクロバット的な光景には心臓がドキッとなります。

○11月19日（水）

早朝の出発でしたが空港は多くの人で賑わっていました。

思い出深い海外研修でしたが、旅の緊張、睡眠不足などから心身ともに疲れが出ます。家族に会えてほっとしたのではないでしょか。（藤原）

